

科学技術で日本の再生を

参議院議員
客員相談役

藤井基之



「ジェノサイド」というSF小説がベストセラーになっています。『ジェノサイド』とは、「大量虐殺」や「文明抹殺」を意味する物騒な単語で、ナチスドイツのユダヤ人虐殺などを思い出します。小説のストーリーは、こんな具合です。アフリカのある部族に、新人類が生まれたという情報を米国がつかめます。米国政府は、この「新人類」によって、現代人が滅ぼされてしまうのではないかと危惧し、「新人類」を生んだ両親だけでなく、その一族も抹殺しようと計画し、実行チームをアフリカに送り込む、と、こんなストーリーです。

私たち、現在生きている人類は、学名を「ホモサピエンス」といい、今から十五万年〜二十万年ぐらい前に生まれたといわれています。それ以前に、ネアンデルタール人、ホモエレクトス

(北京原人など)等の旧人類がいました。子供の頃、私たちは、これらの旧人類が少しずつ進化して現代人になったと教えられましたが、最近の遺伝学ではどうもそうではない、という説が有力なようです。

人の体は約六十兆個の細胞が集まって出来上がっていますが、その細胞の中にミトコンドリアDNAという遺伝子があります。このミトコンドリアDNAは、母親だけからしか受け継がれないのです。ミトコンドリアDNAは、稀に突然変異を起こし、DNA構造の一部が変化します。ですから、人種によって、あるいは人によってDNA構造が少しずつ違うわけですが、古い人の化石や人骨などによって祖先をさかのぼってゆくと、人種や住んでいた地域が違う人間の間でも、だんだんそのDNA構造は似た

ものになってゆき、ついには同じミトコンドリアDNAにたどりつく、つまり、同じ母親にたどりつくのだそうです。この手法で、現代人の祖先をたどってゆくと、実は、ネアンデルタール人や北京原人とはつながらないのだそうです。つまりそれら旧人類とは別個に現代人の先祖は生まれてきた。そして、ネアンデルタール人や北京原人など旧人類と、一定期間共存していたかもしれないが、やがて、知的に優れたホモサピエンスは旧人類を滅ぼし、地球上にはホモサピエンスだけが残った、というわけです。

つまり、この物語は、アフリカのある部族の人間を両親として、突如、現代人よりはるかに知的に優れた新人類が誕生した。この新人類は、ホモサピエンスが旧人類を滅ぼしたように、やがて現代人を滅ぼしてしまうことにな

るのではないかと恐れ、その抹殺を図る、というストーリーのわけです。

ところで私の専門は薬学ですが、この小説の主人公も実は薬学部の大学院生です。小説では、新人類として生まれた子供が、難病治療薬の新薬開発ソフトを作り上げる。大学院生は難病の子供を救うためにそのソフトを使って、新薬の合成に乗り出そうとする。そこで抹殺されようとする新人類を守るために奮闘する、というわけです。

新薬の開発は、「可能性のあるいろいろな物質を実際に化学的に合成し、その中から有力な物質を見つけ出す、というのが通常の手順ですが、新人類でな

くても、最近では有力物質を探し出す作業をコンピュータの中でやっています。そのためには性能の高い、コンピュータが必要になります。今年一月、次世代スーパーコンピュータ「京」がデータ処理速度世界一となったことが話題になりましたが、こうしたスパコンは、

将来の新薬開発にも大きく貢献するでしょう。将来予想される巨大地震の精細なシミュレーションなどでも活躍が期待されます。しかし、ご承知のように、現政権が設置した「事業仕分け」では、担当大臣が、スパコン開発事業について「どうして二番ではだめなの？」などと

発言しました。宇宙科学予算も大幅削減し、小惑星探査機「はやぶさ」が帰還すると慌てて増額するなど、明確な科学政策を持ちません。

自民党政権時代、政府は「科学技術創造立国」を旗印に掲げ、科学研究予算の増額を図ってきました。天然資源に恵まれない我が国は、科学やモノづくり技術などによって世界に伍していかなければなりません。私も、科学技術振興について何度も国会で質問に立ちました。しかし政権が代わって、「科学技術創造立国」の旗印はいつの間にかお蔵に入ってしまった。このままではいいのでしょうか。

藤井 基之

- 生年月日 昭和22年3月16日
- 選挙区 参議院比例区
- 当選回数 2回
- 出生地 岡山県岡山市
- 趣味 音楽・読書
- 個人ホームページ <http://www.mfujii.gr.jp/>
- その他 薬学博士・薬剤師
- 私の政治信条
私の政策の柱はA(エイジフリー)B(バリアフリー)D(ドラッグフリー:薬物乱用のない社会)社会創りです。
高齢者も、障害を持つ方も、国民誰もが安心して暮らし、元気で生活を送ることのできる長寿社会を創るために何が必要か、を政治活動の根底においています。
好きな言葉「昨日の夢は、今日の希望、そして明日の現実」
- 活動報告
参議院議員厚生労働委員会理事として、食品安全確保のための食品衛生法改正、健康増進法改正、薬事法改正、薬剤師法改正、クリーニング業法改正、国民年金法改正等に関与。
- 経歴
昭和37年 岡山大学教育学部附属中学校卒業
昭和40年 岡山県立岡山操山高等学校卒業
昭和44年 東京大学薬学部薬学科卒業
昭和44年 厚生省入省
平成9年 厚生省退官
平成9年 財団法人ヒューマンサイエンス振興財団 専務理事
平成12年 日本薬剤師連盟 副会長
社団法人日本薬剤師会 常務理事
平成13年 参議院議員(1期目)
平成16年 厚生労働大臣政務官(平成16年9月~平成17年11月)
平成19年 日本薬剤師連盟 顧問
平成22年 参議院議員(2期目)
- その他
慶應義塾大学薬学部 客員教授
昭和大学薬学部 客員教授
東邦大学薬学部 客員教授
新潟薬科大学 客員教授
京都薬科大学 客員教授
近畿大学薬学部 客員教授
千葉大学薬学部 非常勤講師